

QR

Quality Review

.1

Animal Rubberband アニマルラバーバンド

photo/ Satoru Naito, text/ Kyoko Ohtsu

.....
何度でも使いたくなる
カラフルな動物モチーフ
の輪ゴムに首ったけ！
.....

文句なしにかわいい動物型のカラフルな輪ゴム。もしも机の上にぽつんと置いてあったら、誰もが「おやっ？」と目を留めるだろう。実際、筆者はペンケースの中に入れて持ち歩いているが、何かの際に取り出すと、一瞬、周囲の視線が集まるのがわかる。

このアニマルラバーバンドは、日本全国のおしゃれなステーションナリーを扱うショップ等で展開し、人気を博しているが、アメリカやヨーロッパ諸国でも人気が高い。事実、アメリカのある州では、子どもたちの間で手首にたくさん巻いたり、お互い持っていない種類のアニマルラバーバンドを交換することが流行り、ついには持ち込み禁止令を出した小学校もあるほどだ。

開発を手掛けたのは東京・浅草橋に本社を構える h concept (アッシュコン概念)。「アニマルラバーバンド」は同社ブランド「+d」(プラスディー)初の開発商品であると同時に、今や看板商品でもある。

この商品を最初に扱ったのがニューヨーク近代美術館のミュージアムショップだったという点もニクイ。アッシュコン概念代表取締役・名見耶秀美

氏は当時の状況をこう振り返る。

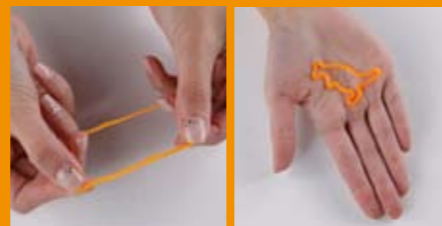
「やっとの思いで商品化して、どこに売り込もうかと考えたとき、デザイナーから『MOMAのショップに置いてほしい』と言われたんですよ。デザイナーとしては、ニューヨーク近代美術館は憧れの場所ですから」

そこで、手作業でパッケージングした商品を片手に、営業担当がニューヨークの展示会へ飛んだ。すると、エージェントは商品を見て「輪ゴムのために飛んできたの？」と驚いたそう。展示会にやって来た MOMA のバイヤーはパッケージの裏を見て笑ひ、その場で商談が成立したのだという。

そう、この商品は、商品そのもののわかりやすさに加え、隠れた“愛されポイント”があるのだ。

パッケージの裏面には通常、「○○しないでください」「××すると危険です」などといった注意書きがずらりと並んでいる。しかし、名見耶氏はそれら文言を、「友達だから、食べないで！」(日本語)、「Don't eat us! We are your friends.」(英語)といった具合に、動物目線でやさしく記したのである。これら取扱上の注意は10項目あるが、子どもにも大人にも、そして日本人以外にも通じるよう、イラストや平易な英語が併記されている。

この目論見は大いに当たり、人気は世界に拡がり、とうとうアメリカでは類似品も発売されるほどの存在となっ



強力で上質な素材を使用しているため、びよーんと伸ばしても、必ず原型に戻る。こんな元気な動物たちを目にすれば、単調なオフィスワークも楽しくなること請け合いです。

た。しかし、メイド・イン・ジャパンの品質の差は歴然としている。アッシュコン概念の輪ゴムはシリコンゴム製だが、純日本産の品質の高いシリコン=丈夫で長持ちし、よく伸びるシリコンを使用している。さらに、他社製品に比べて劣化しにくく、万が一飲み込んでしまっても、安全なのだ。

先述したが、筆者は同商品の愛用者。こんな物語があったことも知らず、随分長い期間日常使いしてきたものだ... と思い、はたと気づいたことがある。それは、輪ゴムであっても、簡単に捨てなかったという事実だ。他人にあげたものならともかく、1匹減れば心配になり、一生懸命机の下を探したこともあった。これほどリユースしてきた消耗品があったらどうか。デザイン力が無意識レベルに働きかける、今をときめくエコ商品だったのである。

『アニマルラバーバンド』は2002年にシリーズ第1号“Zoo”、2004年に第2号“Pet”、2007年に第3号“Dino”(写真下)、2010年に“Farm”もデビューし、充実した品揃えとなった。お土産にもぴったり。動物の輪が世界に広がっている。

あなたの書斎にも、1匹いたら楽しくなるに違いない。



+d (アッシュコン概念)
www.plus-d.com

Animal Rubberband

